

メッセージ：忠実の遺産, Part 2

OICの皆様おはようございます。天の父なる神様の家へようこそ来られました。

今回のメッセージでは、「ヨシュア記」を続けて取り上げ、タイトルは『忠実の遺産：Part2』といたします。

前回のメッセージでは、ヨシュアがどのようにしてイスラエルの優れた将軍であり、靈的指導者としてのリーダーシップの遺産を守り続けたかについて、聖書の意味を解き明かしました。私は、ヨシュアの神様への信頼を「極めて重要な自己重要性」と定義しました。また、聖書の御言葉を通して、イエス・キリストが父なる神様に示された信頼も、同じく極めて重要な自己重要性であったことを示しました。聖書には、この時期のヨシュアの人生の出来事は、彼が 110 歳という高齢に近づく頃だったと記されています。

ヨシュアの忠実の遺産

前回の説教「忠実の遺産 Part1」でもお話ししましたが、神様によって定められた最期の時を迎えるにあたって、ヨシュアの周囲で起こっていた出来事の流れや雰囲気は、かつて神様の約束の地に入るるために神様に召し出されたときの劇的な出来事、「渡ることのできない川を渡り」、「動かすことのできない城壁を打ち倒し」、「打ち破ることのできない大軍勢を打ち負かす」ことと比べると、はるかに穏やかなものでした。

ヨシュアの召命と征服（戦い）を通して、彼の人生全体を形づくっていた 4 つの主要なテーマをまとめます。

1. ヨシュアの召命
 - 私のメッセージ「勇気とともに広がる人生」（2025 年 2 月 9 日）
2. 渡ることのできない川を渡る出来事
 - 私のメッセージ「越えられない川」（2025 年 3 月 30 日）
3. エリコの動かし得ない城壁を打ち倒す出来事
 - 私のメッセージ「私たちの壁が崩れ落ちる」（2025 年 4 月 27 日）
4. 打ち破ることのできない大軍勢を打ち負かす出来事
 - 私のメッセージ「巨人との戦い」（2025 年 5 月 11 日）

ヨシュアのイスラエルへの勧めと励まし＜ヨシュア記 23 章 6 節-8 節＞を読みます。

＜ヨシュア記 23 章 6 節-8 節＞

6 ただ、モーセの律法に記されたことは、一つ残らず守りなさい。少しでも違反してはならない。
7 この地になお残っている異教の民とは、断じて交わってはならない。その神々の名を口にしてもいけない。まして神々によって誓ったり、礼拝したりすることなど、あってはならない。
8 ただ、今まで同様、主にのみ従いなさい。

ヨシュアが若き指導者としてモーセの後継という重大な役割に立てられたとき、主が最初に命じられたことを、ヨシュアは一度も忘れなかつたことがわかります。その最初の命令は、何年も前の＜ヨシュア記 1 章 6 節-7 節＞に記されています。

＜ヨシュア記1章6節-7節＞

6 ヨシュアよ、雄々しく立ち、勇気を出しなさい。りっぱな指導者になるのだ。わたしが先祖に与えると約束した地を全部、占領しなさい。

7 強く雄々しくあって、勇気を出しなさい。モーセが与えた律法をしっかりと守りなさい。そうすれば、あなたは成功する。

ヨシュア記<23章6節-8節>でヨシュアが語っていることは、神様がヨシュアに命じ、教えられたこと<ヨシュア記1章6節-7節>を、イスラエルの民に向かってそのまま繰り返しているにすぎません。

ヨシュアは、主によって召し出されたことと自分の原点を覚えていました。そのことが、彼の「確信」を単なる靈的な概念にとどめるのではなく、日々の歩み、すべての戦い、そしてすべての勝利における力としたのです。神様がヨシュアに命じられた、「強くあれ。雄々しくあれ。」の言葉は、ヨシュアのような信仰の人でさえ、信仰や勇気が揺らぐことがあるからこそ与えられた励ましでした。

さらに神様は、「あなたは彼らの先祖に与えると誓ったその地を、彼らに受け継がせる者となる」と告げられました。

つまり神様はヨシュアに、「自分には極めて重要な自己重要性がある」ということ、神様が彼の人生に与えられた目的、神様が彼に授けられた自然的・超自然的な力（負ることのない剣、彼の周囲で起きる奇跡）を、ヨシュア自身が神様を信頼するように信じて歩むべきであることを悟らせようとしておられたのです。

そして神様はヨシュアの心をご存じだったので、「あなたがそれを成し遂げる。あなたは約束を守る者となる」と信頼を込めて語られました。ヨシュアがイスラエルに語った最後のメッセージは、<ヨシュア記23章14節>神様がご自身の約束を確かに守ってこられたことを、民に深く思い起こさせるものでした。

＜ヨシュア記23章14節＞

14 まもなく私は、世の人々の例にならい死を迎えるだろう。よくわかってくれていると思うが、主のお約束はすべて実現した。

興味深いことに、今日のアニメやコミック、スーパーヒーロー映画に登場する特別な力をもつ英雄たちは、旧約聖書において神様の力によって現実に起こった出来事を思い起こさせるものがあります。イスラエルが戦いに臨んだとき、「あなたの前に立ちはだかる者はいない」という神様の約束どおり、彼らの剣の前にどんな敵も立ち向かうことができなかつたことは、実際に歴史の中で起こった神様の御業なのです。

今日のクリスチャンに「勇気を持つ」という神様の命令

現代を生きる私たちクリスチャンもまた、<ヨシュア記1章6節-7節>で神様がヨシュアに語られたこの命令を、自分自身への言葉として聞く必要があります。

＜ヨシュア記1章6節-7節＞

6 ヨシュアよ、雄々しく立ち、勇気を出しなさい。りっぱな指導者になるのだ。わたしが先祖に与えると約束した地を全部、占領しなさい。

7 強く雄々しくあって、勇気を出しなさい。モーセが与えた律法をしっかりと守りなさい。そうすれば、あなたは成功する。

そして後になってヨシュアは、イスラエルの民にも同じことを語りました。

＜ヨシュア記 23 章 6 節＞

6 ただ、モーセの律法に記されたことは、一つ残らず守りなさい。少しでも違反してはならない。

しかし、今日のクリスチヤンにとっての力と勇気は、モーセの律法から来るのではありません。それは、イエス・キリストの福音から来るものであり、私たちがイエス様を信じているがゆえに与えられた義から来るのです。神様の御言葉が「義とされること」をどのように定義しているか、使徒パウロがローマの教会へ宛てて書いた手紙の言葉＜ローマ 5 章 1 節-2 節＞を思い起こしたいと思います。

＜ローマ人への手紙 5 章 1 節-2 節＞

1 ですから、信仰によって神の目に正しい者とされた私たちは、主イエス・キリストによって、神との間に平和を得ています。

2 信仰のゆえに、キリストは私たちを、いま立っている、この最高の特権ある立場に導いてくださいました。そして私たちは、私たちに対する神の計画がすべて実現するのを、喜びをもって待ち望んでいるのです。

2023 年 12 月 3 日に OIC でローマ書 5 章をもとに語った私の説教を思い起こしていただきたいと思います。私は J. B. フィリップス訳＜ローマ人への手紙 5 章 1 節-2 節 / JBP＞が非常に心に響くと感じています。

＜ローマ人への手紙 5 章 1 節-2 節 / JBP＞

それゆえ、私たちは信仰によって義とされているのですから、私たちが主イエス・キリストを通して神との平和を与えられているという事実を、しっかりと受けとめましょう。キリストによって、私たちは確信をもってこの恵みの関係へと導き入れられました。そして今、私たちはこの恵みの上にしっかりと立ち、将来、神が私たちに備えておられる栄光に満ちた約束を、喜びと確信のうちに待ち望むのです。

ここで出てくる “GRASP (つかむ) ” という言葉には、私たちが信仰によって義とされているという真理を、「しっかりとつかむ」「明確に理解する」「強く握りしめる」という意味があります。

これは、ヨシュアが民に命じたこと＜ヨシュア記 23 章 8 節＞と同じです。

＜ヨシュア記 23 章 8 節＞

8 ただ、今まで同様、主にのみ従いなさい。

さらに、新約聖書におけるクリスチヤンの歩みの繰り返し語られている中心テーマで、「イエス様にお会いする日まで信仰から信仰へと、しっかりとつかんで歩み続けること」を思い起こしていただきたいです。 (2023 年 10 月 8 日・ Bruce 牧師の説教より)

その説教で、＜ローマ人への手紙 1 章 17 節＞の解き明かしを通して、次のことを語りました。救いの力は、罪人がイエス様を救い主と信じて新しく生まれ変わりに御業が始まり、聖なる聖徒として内で御業が働き続けると明確にされています。この神様の力は、地上での人生の間、絶えず続いているかなければなりません。イエス様を信じて新しく生まれ変わったクリスチヤンのうちに続けられる神様の御業は「信仰から信仰へ」です。そして、イエス様を信じて新しく生まれ変わったクリスチヤン自身もまた、自分の魂や心の領域において、「信仰から信仰へと」働き続けます。しかし、私たちと共におられるイエス様こそ、私たちの十字架の重い側をいつも担ってくださるのです。

クリスチヤンの勇気-神様の御前に与えられた義と聖霊なる神様の賜物

イエス様を信じるゆえに、私たちが神様の御前に正しく立つ者とされている義をしっかりと握ることこそ、私たちクリスチャンがヨシュアのように強く、また勇敢に歩むための、堅固な岩、搖るがない土台となるのです。ヨシュアが神様に従い続けたその生き方は、彼の家族と民にとどまらず、聖書を通して今日の私たちにまで受け継がれる尊い遺産となりました。私はこれを、ヨシュアの『極めて重要な自己重要性』と呼びます。それは、まことに神様に従う者の自信です。人間の戦略によるのではなく、神様の戦略に信頼する自信です。

しかし、神様は私たちが人間であること、また聖なる存在であることを否定されません。私たちは＜詩篇 139 篇 14 節 (KJ21) ＞を心に留め、黙想することができます。

＜詩篇 139 篇 14 節 (KJ21) ＞

こんなにも複雑かつ緻密に 仕上げてくださったことを感謝します。想像することもできないくらい、すばらしいことです。あなたのわざは驚くべきもので、私にはとうてい、理解することはできません。

私のメッセージ『勇気とともに広がる人生』（2025年2月9日）では、ヨシュアの神様からの召命と命令＜ヨシュア記 1 章 6 節＞から、勇気の意味を学びました。同じように、＜ハガイ書 2 章 5 節＞に記されているように、イスラエルの預言者や民に神様は語られました。

＜ハガイ書 2 章 5 節＞

エジプトを出た時、わたしの靈がおまえたちにとどまる、と約束した。だから恐れるな。

神様の御性質は変わっていません。もし、聖靈なる神様が主を求め続けた心のイスラエルの民と共に留まられたのであれば、＜ヨハネの手紙 I 4 章 13 節＞にあるように、私たち新約のクリスチャンに、なおさら共にいてくださるのです。

＜ヨハネの手紙 I 4 章 13 節＞

神は、私たちの心に聖靈を与えてくださいました。それによって、私たちは神と共に生き、神も私たちと共に歩んでくださることがわかります。

神様はヨシュアを信頼して神様の力を委ねられたように、今日のクリスチャンにも神様の力を託しておられるのでしょうか。

私はヨシュアについて「神様はヨシュアを信頼しておられた」と語りました。私が初めて「神様は私を信頼しておられる」という言葉を聞いたのは、強力な癒しの賜物を持ったある説教者が語ったときでした。その説教者のそばに立っていた私の牧師が、「アーメン」と応じました。保守的なクリスチャンの私の牧師が賛同するのを聞いたことで私をその言葉について立ち止まり、祈らせました。

私は自分自身を信頼することをまったく恐れていきました。当時、私はイエス様を信じて新しく生まれ変わった10年ほどのクリスチャンでしたが、神様が私を信頼してくださっていると想像できませんでした。

＜イザヤ書 38 章 17 節 (AMP 訳) ＞が約40年前の天国への巡礼の途上で私がどのような状態にいたかをよく表していると思います。

＜イザヤ書 38 章 17 節＞

今やっとわかりました。この苦しい経験は、みな私のためだったのです。神が愛をもって私を死から救い出し、いっさいの罪を赦してくださったからです。

クリスチャンが自分自身を赦せるようになるまでには、神様が自分の罪を赦しておられても、何年もかかることがあります。「神様は私を信頼しておられる！」ということは、たとえ自分自身の良心が感じられなくても、神様によって赦され、無罪と宣言された自分を受け入れるという、敬虔な姿勢です。

クリスチャンとして神様があなたを信頼しておられると信じることは、神様があなたの人生に備えておられるご計画を信頼し、あなたをご自身に属する者として召し、仕えるように召しておられることを信じることです。そうして初めて、神様があなたに与えてくださった賜物を、神様の目的のため、すなわち神様の栄光のために自由に用いるのです。私はこれを、「（神様のご計画における）極めて重要な自己重要性を知り、生きること」と呼んでいます。

これは、「決して再び罪を犯すことができない」とか、「自分の人生の神様の完全な御心に愚かに逆らわない」と想像することを基盤にしているのではありません。むしろイエス様を信じている者が「神様が自分を信頼してくださっているから、自分も自身を信頼する」時、彼は神様が備えられた極めて重要な自己重要性をいっそう豊かに生きるようになります。そのような人は、サタンの脅しのための嘘に誘惑されにくくなります。サタンはクリスチャンに向かって、「あなたは本当に、悪や災いを企むサタンの計画に打ち勝つ征服者ではない」と嘘をつくのです。イエス様を信じている者が、まずイエス様によって贖われ、義と認められ、神様の御前に受け入れられるという立場に置かれたイエス様を信頼しているから、この自信に真に謙遜な方法で生きられるのです。

前回のメッセージ「忠実さの遺産 Part1」で、私は次のように述べました。

ヨシュアは、全ての勝利のために自分が神様にどのように頼っているかを知っていました。しかしヨシュアは以前の召しのときに神様の命令は自分に与えられた賜物と、神様から授けられたすべての能力に自信を持つこと、すなわち人間の自分が要求されたことも知っていました。これが彼の「極めて重要な自己重要性」であり、真に敬虔な人が持つ自信なのです。

それはまた、人が人間の戦略ではなく、神様の戦略に依り頼むという意味でもあります。そうです。神様は、神様の力とご計画を信頼する人生を生きようと献身するクリスチャンを信頼しておられます。これは、イエス様が神様の道を教えるように自らの「極めて重要な自己重要性」を育てていくクリスチャンです。

私はこの概念を、あるルーテル派（ルター派）の牧師の説教の中で見つけました。前回のメッセージでは、ヨシュアもイエス様も、それぞれの召しと「極めて重要な自己重要性」を意識する人生を生きたことから、聖書がこの考え方を支持していることを示しました。

ヨシュアは、カナンを征服し、イスラエルの靈的生活をアブラハム、イサク、ヤコブの神様、唯一まことの神様に集中させるよう導くために召されました。

イエス様は、天の御父に従い、十字架の死に至るまで従順であられ、全ての罪人がイエス様を信じるならば赦しと永遠のいのちを得ることができるよう、その代価を払うために召されたのです。

この「クリスチャンとして生きるための概念」は、『人生を導く目的』と呼ばれたとても人気のある Rev. Rick Warren の著書とテレビシリーズの中心テーマでした。私は、イエス様の御靈がこの本を用いて、特に世界で最も豊かな国であるアメリカの多くのクリスチャンの心にある、物質主義的な成功の夢や世的な目標に挑戦するよう促したのだと信じています。

しかし、クリスチャンが自分たちの人生の神様の御心より優先してしまう誘惑となる偶像は、富や豊かさ以外にも多く存在しています。

前回のメッセージで申し上げたように、「こうして私たちは、このルーテル派牧師が語ったすべてのクリスチャンは、召された牧師を含め、極めて重要な自己重要性を必要としているというポイントを理解することができます。神様の子どもは誰もが、献身者だけでなく、人生に目的を持っているのです。

しかし皆さんの中には「ブルース牧師、私たちはキリストと共に十字架につけられたのではありませんか。自己は死んだのではありませんか」と言われる方がいるかもしれません。確かに、使徒パウロは新約聖書のさまざまな教会への手紙の中で、このことを繰り返し教えました。<ガラテヤ人への手紙 2章 20節>には、聖靈なる神様によって次の御言葉が記されています。

<ガラテヤ人への手紙 2章 20節>

私はキリストと共に十字架につけられました。もはや、私自身が生きているのではありません。キリストが、私のうちに生きておられるのです。私のためにご自身をささげてくださった神の御子を信じた結果、今、私のうちにはほんとうのいのちが与えられています。

しかし、聖書のどんな1つの聖句であっても、真のキリスト教に反する異端を生み出すことがあります。もしこの聖句だけを取り上げるなら、仏教を信じる人々や個としての存在を消し去る涅槃を目指す人々の虚無主義になってしまふかもしれないことを悟ります。神様は、人をご自身との交わりのために創造されました。存在しない者が神様と交わることなどできません。使徒パウロが<ガラテヤ人への手紙 2章 20節>で「キリストと共に十字架につけられた」と語った意味は、神様の御心に反する自己の意思を十字架につけること、そして常に聖さに反する罪への欲望を十字架につけることを意味しています。

私たちが後に残すもの

前回のメッセージ「忠実さの遺産 Part1」で申し上げたとおり、忠実さの遺産とは、私たちが天国へと旅立った後に、この地上に残される私たちの人生に影響されることです。そしてそれは、今、私たちが自ら極めて重要な自己重要性を生きることによってのみ可能となるものです。また、あらゆる遺産、すなわち「悪ではなく善のために残される永続的な影響」は、神様によって始められ、神様によって続けられ、そして神様によって完成されるのだということもお伝えしました。さらに私は、自分の遺産（レガシー）に心を奪われすぎて、イエス様から目を離してしまう危険性についても警告しました。

ここで、歴史上の1人の人物を例として挙げたいと思います。彼は日本人でした。彼の人生は、神様がイエス様の十字架によって罪人の人生を変えられ、クリスチャンの極めて重要な自己重要性である神様の目的を生き抜くことに注力された人生を作られるという力をよく示しています。

ヨシュアのように、この人物も生涯を通して最初は天皇のために、そして後には主イエス様のために大きな勇気と大胆さを示しました。彼は自国を名誉あるものとする遺産を残しましたが、それ以上に神様をあがめる遺産を残したのです。彼の名は淵田美津雄（ふちだ みつお）です。

淵田美津雄の遺産

今日は、日本軍がハワイの真珠湾を攻撃してから84周年にあたる日です。この出来事によって、アメリカ合衆国はドイツと日本から成る枢軸軍に対して第二次世界大戦へ参戦することになりました。

皆さんは私に「牧師先生、なぜ日本人にとって死と破壊の悲しい日々を取り上げるのですか」と尋ねるかもしれません。

それは、クリスチャンとして、どれほど死や破壊が起こる時であっても、イエス様を天の御座から引きずり下ろしてはならないからです。イエス様こそ、天と地の主です。

<詩篇 97 篇 1 節>は、地上で起こるすべての出来事を超えて、大胆に宣言しています。

<詩篇 97 篇 1 節>

主は全世界の王です。 大地よ、喜んで飛びはねなさい。 最果ての島々も喜びなさい。

私は、この「最果ての島々」を、私たちの愛する日本のこととして感じています。

Charles H. Spurgeon (M&E) を引用します。

「威光は、嵐の恐怖のただ中で火の閃光となってきらめき、帝国の崩壊や王座の崩れ落ちる壮絶さの中に、主の栄光が見られる。」

神様はクリスチャンに、神様を信頼すること、そして信仰によって、すべての歴史を永遠の光に照らして見ることを求めておられます。神様は災害が人間を襲うとき、特に愛する者たちが苦しむとき、深いあわれみと痛みを本当に感じておられます。

Charles H. Spurgeon はこのことを示すために、19 世紀の詩を加えました。

God is God; He sees and hears
All our troubles, all our tears.
Soul, forget not, 'mid thy pains,
God o'er all for ever reigns

(神様は神様であられる。神様は見ておられ、聞いておられる。
私たちのすべての苦しみも、すべての涙も。
魂よ、痛みのただ中にあって忘れるな。
神様はすべての上にあって、永遠に君臨しておられることを。)

淵田美津雄の遺産と人生が本格的に姿を現したのは、第二次世界大戦後のことでした。地球上で最大の戦争は、まさに始まったばかりでした。彼の人生は、その激しさにおいてヨシュアの生涯に似ていました。すなわち、彼は第二次世界大戦の幕開けとなるハワイ・真珠湾攻撃を主導した人物でした。この奇襲攻撃は不可能だと考えられていました。また彼は、勝つことが不可能だと知りながらも、天皇への忠誠ゆえにアメリカ軍を打ち負かすための戦いに身を投じました。

ある意味で、彼は世界規模へと拡大する戦争の引き金を引いた人物といえます。しかし神様は、彼の心にある永遠への思いをご覧になっていました。神様のサムライとなった淵田美津雄は日本で英雄でした。

そうです。もし日本のクリスチャンが、英雄や遺産を必要としているのであれば、淵田美津雄を思い起こしてみてください。彼は日本海軍航空隊で最も優れたパイロットの1人であり、1941年12月7日の真珠湾攻撃における海軍の重要な1員でした。

彼と、彼の航空訓練の同期たちは、山本五十六長官により攻撃部隊の中心として選ばれました。そして淵田は、奇襲である場合にのみ攻撃を開始するという重要な判断を任せられていたのです。

彼の有名な言葉、「トラ・トラ・トラ」（虎、虎、虎）は、真珠湾を攻撃せよという合図として、他のパイロットたちに発せられた暗号でした。

皆さんは「Bruce 牧師、これのどこがクリスチャンとしての遺産になるのですか」と尋ねるかもしれません。

私の答えには、聖書に示されている名誉の姿勢が含まれています。キリストが彼の心に入られる前、淵田は祖国への名誉、そして天皇への忠誠のもとで行動していました。彼は真珠湾攻撃を成功裏に導き、多くのアメリカ海軍の艦船を沈め、多くのアメリカ兵が命を落としました。

以前の説教でも教えたとおり、バプテスマのヨハネの言葉によって、戦争で敵を殺すことは殺人とは異なると聖書は明確に示しています。これは神様の御言葉です。

しかし神様は淵田に単なる戦争での勝利よりもっとそれ以上のものを与えておられました。神様は奇跡的に彼の命を守り続け、世界の基礎が築かれる前から神様に選ばれていた使命を果たすために彼に先行する恵みまたは受ける資格のない好意を与えられました。

彼がイエス様に出会う前の人生に多くの奇跡がありました。その中でも最も力強いもののひとつは、広島に原子爆弾が投下された後の出来事です。淵田中佐は、日本海軍の信頼された指導者たちとともに、壊滅した広島市を視察しました。しかし、その1年以内に、淵田以外の同行した者たちは皆、放射線障害で亡くなりました。淵田はまったく影響を受けなかったのです。

この奇跡やその他の奇跡は、彼の自伝『神のサムライ——真珠湾からゴルゴタへ』(FLSB) などに記されています。ここでその中のほんのいくつかをお話しします。

彼について書かれた最新の本『Wounded Tiger (傷ついた虎)』(FLSB) は、アメリカのプロ作家によるもので、さらに力強い内容となっています。著者は映画化を強く望んでいます。この本は淵田の人生の細部を見事に結びつけて描き、とくに戦時中、彼が民間人に示した思いやりの姿勢を丁寧に記しています。

淵田は日本の零戦に乗り、虎のように戦いましたが、民間人には子猫のように優しく接したのです。日本陸軍とは異なり、日本海軍はジュネーブ条約に基づいた戦争での民間人への適切な態度を教えていました。淵田は誇りをもって喜んで実践したのです。

1942年、淵田は南太平洋でアメリカ軍を攻撃するための新しい飛行場を建設するために、ある島の飛行場に着陸しました。そこで彼は、クリスチャンの宣教師である Covells 家族と出会いました。

彼らは一緒に食事をし、淵田はその家族に日本軍が到着する前に逃げるよう警告しました。しかし、彼らは逃げませんでした。Covells 家族は、日本兵に斬首される際にも、兵士たちのために神様に赦しを祈ったのです。娘だけは逃れることができました。

戦後、淵田は捕虜として抑留されていた日本兵たちから、Covells 家の娘がカリフォルニア州サンフランシスコの陸軍病院にいることを知ります。そこで、彼女が捕虜となった日本兵たちを看護して回復させていたのです。

この知らせを聞いて、淵田の心は次第にキリストへと向かい、溶けていくような変化を感じ始めました。

戦後、淵田はこれから行われる戦争犯罪裁判に関する書類に署名するため、東京に滞在していました。通りを歩いていたとき、ある伝道者に出会い、聖書を手渡されました。彼はその聖書を受け取りました。

自宅の静けさの中で、彼はさまざまなことを思い巡らしました。

国家同士で戦争をするということは、なんと狂気じみているのか。

一緒に飛行訓練を受けた親しい仲間は皆、死んでしまった。

日本兵もアメリカ兵も、そして多くの日本の市民も、何百万人も命を落とした。

私は、自分の乗っていた空母を攻撃するために命を投げ出して突入してくるアメリカ兵を心から敬服するようになった。彼らの勇気のため彼らと友になりたいと思った。しかし、私は彼らを殺さねばならなかった。

淵田は、イエス様や神様の人生の目的なしに生きることがどれほど虚しいかを体験していました。それはまさに、ソロモン王が＜伝道の書1章1節-3節（NLT）＞で書いた通りでした。

＜伝道の書1章1節-3節＞

1 ダビデ王の子で、エルサレムの王であり、「伝道者」と呼ばれたソロモンの教え。

2 思うに、この世に価値のあるものなどない。すべてがむなしい。

3-(7)人はあくせく働いた報酬として、何を手に入れるというのか。一つの時代が去り、新しい時代が来るが、少しも変わらない。太陽は昇っては沈み、また昇ろうと、急ぎ元の所に帰って行く。風は南に吹き、北に吹き、あちこち向きを変えるが、結局行き着く所はない。川は海に注ぐが、海は決してあふれることはない。水は再び川に戻り、また海に流れて行く。

淵田は聖書を読み、唯一、真の、そして永遠に価値のある王国は、王の王であられるイエス・キリストの神様の王国であることに気づきました。彼はイエス様を受け入れました。

その後、彼は自分に聖書を手渡してくれた伝道者のもとを訪れ、東京での伝道活動のリーダーであり宣教師である Jacob DeShazzer に紹介されました。Jacob DeShazzer は、日本がもはや安全な場所ではないという心理的メッセージとしてだけにわずか12機の飛行機で東京を爆撃した有名なドーリトル空襲に参加していました。彼は日本に捕らえられ、戦後、宣教師として日本に戻ってきたのです。

Jacob DeShazzer はすぐに、日本の戦争英雄の心に本物の信仰があることを見抜きました。これは1945年の日本の瓦礫と破壊から見つけたダイヤモンドでした。

しかし、Jacob DeShazzer は、戦争が終ったとき、淵田と全ての軍人たちが日本国民から憎まれていたことには気づいていませんでした。国民は戦争に負けたために全責任を彼らに負わせました。

攻撃的で熱狂的な陸軍将軍たちが、裕仁天皇をどれほど欺いていたかが示されるための真実には何年もかかりました。将軍たちは、特に朝鮮半島での征服における残虐行為を天皇に隠していました。

裕仁天皇は、戦後、マッカーサー将軍によって戦争犯罪の処罰を正当に免れました。公式な降伏の直前、これらの熱狂的な日本の将軍たちは、天皇の計画していた全国向けのラジオ放送を知ると、裕仁天皇を暗殺するために宮殿を襲撃しようとしました。このラジオ放送は、国民にアメリカ軍に名譽ある降伏をするよう告げるものでした。

それでもなお、淵田は、敵であったアメリカに、そしてあらゆるところにいるすべての人々に救いの生きた証しとなりました。彼の遺産は神様に栄光を帰し、クリスチャンたちに、たとえ母や父を殺した人々であっても、敵を愛するよう励ましとなっています。

すべてのクリスチャンは奇跡であり極めて重要な自己重要性を持っている

＜ローマ人への手紙5章8節＞に書かれているように、神様の愛の奇跡は、罪人であるそれぞれのクリスチャンの心をとらえ、イエス様を信じ、従う者とされました。

＜ローマ人への手紙 5 章 8 節＞

しかし、私たちがまだ罪人であった時、神はキリストを遣わしてくださいました。そのキリストが私たちのために死なれたことにより、神は私たちに大きな愛を示してくださいました。

神様がそれぞれのクリスチャンに示された、先行する、受けるに値しない好意の道がどのようなものであれ、私たちは皆、御子イエス様の十字架のもとに来て信じたのです。有名なクリスチャンであろうと無名のクリスチャンであろうと、すべての者は天国において知られており、＜エペソ人への手紙 1 章 6 節＞にあるように、私たちは皆、愛される御子イエス様において神様に受け入れられています。

＜エペソ人への手紙 1 章 6 節＞

神こそ、いっさいの賞賛を受けるべきお方です。神は、驚くばかりの恵みと愛とを豊かに注いでくださいました。それは、私たちが、神の最愛のひとり子につながる者となったからです。

私たちすべては、淵田美津雄のように、日本では世間の常識に反して、後にはアメリカでも、自己を犠牲にした愛の模範に従いましょう。淵田は主イエス様を見いだし、自らの極めて重要な自己重要性を見つけるために神様の召しに従い始めました。

実際のところ、最初のうちは、淵田はイエス様を公に伝道することにためらいを感じていました。彼にトラクトを渡し、その後、彼を救った聖書を販売した人々である Jake DeShazzer を含む東京から来た宣教師たちは彼の信仰の誕生を秘密にするよう促しました。これは日本人に非常に一般的な性質です。

しかし 1950 年 4 月 14 日、彼らは大阪で集会を開き、淵田にとって初めての公に証しする場を設けました。真珠湾を爆撃したその人物の話を聞こうと、人々は通りいっぱいに押し寄せました。

淵田が頑なに抵抗しているのを見て、宣教チームのひとりである喜日（きんいち）が彼にこう言いました。

「キリストは、『もし人々の前でわたしを恥じるなら、天の父の前であなたを恥じる』と言われました。真の侍（さむらい）は、主君に対して搖るぎない忠誠を保つものです。もしキリストが今あなたの主であるなら、あなたはその家臣となったのです。あなたの人生は、今や主のものです。」

やがて淵田は、聴衆に向かって力強く流れるように語りました。淵田は、日本軍の拷問を受けながらも、戦後、日本人を救うために戻ってきたアメリカ人クリスチャン兵士たち Jake DeShazzer たちの愛を語りました。また、殉教した Covells 宣教師一家と、その娘が「敵」であった日本の捕虜の兵士たちを看護していた愛を語りました。

そして、自分を救ってくださった神様と、その御子イエス・キリストへの信仰について語りました。彼は「日本人が求めている調和への唯一の道は、この信仰にある」と言いました。

まもなく、彼はアメリカでビリー・グラハムと共に伝道者として働くようになりました。多くのアメリカ人からの激しい憎しみにもかかわらず、彼は神様の侍となり真理にとどまりました。

世界の瓦礫の中から、神様は神様の子たちを立ち上がらせます。

十字架とあなたの遺産のために祈りましょう

聖餐式です。